

改曆辨

福澤諭吉

青空文庫

太陽曆と大陰曆との辨別

このたびたいいんれきやめたいやうれき
 此度大陰曆を止て大陽曆となし、明治五年十二月三日を明治六年一月一日と定めたるは一年俄に二十七日の相違にて世間にこれを怪む者も多からんと思ひ、西洋の書を調べて彼の國に行はるゝ大陽曆と、古來支那、日本等に用る大陰曆との相違を示すこと左の如し。

太陽とは日輪のことなり。大陰とは月のことなり。曆とはこよみのことなり。故に太陽曆とは日輪を本にして立たるこよみ、大陰曆とは月を本にして立たるこよみと云ふ義なり。抑も此世界は地球と唱へ圓きものにて自分に舞ひながら日輪の周圍を廻ること、これを譬へば獨樂の舞ひながら丸行燈の周圍を廻るが如し。獨樂の自分に一度廻るは即ち地球の自轉といふものにて、行燈の方に向たる半面は晝となり、裏の半面は夜となり、この一轉を一晝夜とするなり。斯く獨樂の舞ひながら行燈の周圍を廻るは即ち地球の公轉と云ふものにて、行燈を一廻まはりて本の場合へ歸る間に、春夏秋冬の時候を變じ、一年を爲すなり。扱日輪の周圍に地球の廻る道は六億の里數あり。この六億里の道程を三百六十五日と六時實は五時四十八「ミニウト」四

十八「セカンド」なれども先つ六時とするなりの間に一廻して本の處に歸るなり。即ち地球の自轉にて云へば三百六十五度と、四半分轉る間に六億里の道を走ることなり。大陽曆はこの勘定を本にして日輪の周圍に地球の一廻する間を一年と定めたるものなり。然るに此一廻の間、丁度三百六十五日ならば千年も万年も同じ曆にて差支なき筈なれども、六十五日の上端に六時といふものありて毎年六時づ、後れ、四年目には四六二十四時、即ち一日の後となるゆへ、四年目には一日増して其間に地球を走らしめ、丁度本の處に行付を待つなり。即是閏年なり。右の如く大陽曆は日輪と地球とを照し合せて其互に鈞合ふ處を以て一年の日數を定たるものゆへ、春夏秋冬、寒暖の差、毎年異なることなく何月何日といへば丁度去年の其日と同じ時候にて、種を蒔くにも、稻を刈るにも態々曆を出して節を見るに及ばず。去年の彼岸が三月の二十一日なれば今年も丁度其日なり。且毎年の日數同様なるゆへ、一年と定めて約條したる事は丁度一年の日數にて閏月の爲に一箇月の損徳あることなし。其外の便利は一々計へ擧るに及ばざることなり。唯此後は所謂晦日に月を見ることあるべし。數を知らざる無學の人には、一時目を驚かすの不便あらん乎、文盲人の不便は氣の毒ながら顧るに暇あらず。其便不便は暫く擱き、兔に角

に日輪にちりんは本もとなり、月つきは附つきものなり。附つきものを當あてにせずして、本もとに由よつて曆こよみを立たつるは、事こと柄らに於おいて正ただしき道みちといふべし。

大陰曆たいいんれきは月つきを目當めあてにして定さだめたる曆こよみの法はふなり。月つきは此地球このちきうの周圍まはりを廻まはるものにて其實そのじつは二十七日と八時ときにて一廻ひとまはりすれども、日ひと地球ちきうと月つきとの鈞合つりあひにて丁度ちやうど一ひとまはり廻まはして本もとの處ところに歸かへるには二十九日と十三時ときなり。大陰曆たいいんれきは毎月まいげつ十五日の夜よに圓まるき月つきを見る趣しゆか向うなれども、右みぎの二十九日と十三時ときを十二合あはせて十二箇月かつきとしては三百六十五日に足たらず、即すなはち月は既すでに十二度地球どちきうの周圍まはりを廻まはりたれども、地球ちきうはいまだ日輪にちりんの周圍まはりを一ひとまは廻まはせざるなり。此差このちよそ凡およそ二年半はんあまり餘あまりにして一月計ばかりなるゆゑ、其時そのときに至いたり閏月しゆんげつを置おき十三ヶ月を一年となし、地球ちきうの進すすんで本もとの處ところに行ゆき付つくを待まつなり。又またこれを譬たとへばあらまし三百六十五文拂はらふべき借しやくきん金を、毎月まいつき二十九文五分ぶづの濟すみくち口くちにて十二箇月か拂はらへば一年およそに凡およそ十一文ふづの不足ふそくあり。十一文ふづ、二年半はんあまり餘あまりも滯とどらば大抵たいてい三十文計ばかりの引負ひきおひとなるべし。閏月しゆんげつは即すなはちこの三十文の引負ひきおひを一月にまどめて拂はらふことゝ知るべし。右みぎの次第しだいにて大陰曆たいいんれきは春しゆんか秋しゆうかう冬とうの節せつに拘からず、一年の日數ひかずを定さだむるものなれば去年きよねんの何月何日なんぐわつなんにちと、今年ことしの某日そのひとは唯唱たとなへのみ同どう様やうなれども四季しきの節せつは必ず相違さうゐせり。故ゆゑに入梅つゆ、土用どよう、彼岸ひがんなどゝて農業のうげふの節せつは一々こよみ曆こよみを見みざれば叶かなはぬことなれり。且かつ又またこ

れまでの曆にはつまらぬ 吉凶を記し黒日の白日の白日のとて譯もわからぬ日柄を定たれば、
 世間に曆の廣く弘るほど、迷の種を多く増し、或は婚禮の日限を延し、或は轉宅の
 時を縮め、或は旅立の日に後れて河止に逢ふもあり。或は暑中に葬禮の日を延し
 て死人の腐敗するもあり。一年と定めたる奉公人の給金は十二箇月の間にも十兩、十
 三箇月の間にも十兩なれば、一箇月はたゞ奉公するか、たゞ給金を拂ふか、何れにも
 一方の損なり。其外の不都合計るに違あらず。是皆大陰曆の正しからざる處なり。
 右の次第にて此度大陰曆を改めて大陽曆と爲し俄に二十七日の差を起したれども少
 しも怪むに足らず。事實の損にもあらず、徳にもあらず、千萬歳の後に至るまで世の便利
 を増したるなり。都て人たる者は常に物事に心を留め、世に新らしき事の起ることあら
 ば、何故ありて斯る事の出來しやと、よく其本を詮索せざるべからず。其本の由
 はれ わきまふ 縁をさへ辨れば如何なる新奇なる事にて怪むに足るものなし。此度の改曆にても其
 のわけ 譯を知らずして十二月の三日が正月の元日になると計りいふて、夢中にこれを聞き
 夢中にこれを傳へなば實に驚くべき事なれども、平生より人の讀むべき書物を読み、
 物事の道理を辨じてよく其本を尋れば少しも不思議なる事にあらず。故に日本國
 中の人民此改曆を怪む人は必ず無學文盲の馬鹿者なり。これを怪しまざる者は必

ず^{へいぜい}平生^{がくもん}學問^のの^{こころ}心^{がけ}掛^{ある}ある^{ちしや}知者^{なり。}なり。^{されば}此^{このたび}度^のの^{いちでう}一條^はは^{にっほんこくちう}日本^中國^の中^のの^{ちしや}知者^とと

ば^{かも}鹿^{もの}者^とと^{くへつ}を^{くへつ}區別^{する}する^{ぎんみ}吟味^のの^{もんだい}問題^{といふも}といふ^かも^{なり。}可^{なり。}なり。

地球ちきうの舞まひながら日輪にちりんの周圍まはりを廻まはる圖づ、此道程このみちのりイギリスの里法りはふにて六億里おくりあり

地球ちきうの周圍まはりに月の廻まはる圖づ、「い」印じるしより始はじまり「ち」印じるしに至いたる。此廻このまはる道みちにて月の盈つき虚みちかけを爲なす

地球の舞ながら

日輪

の周

の廻る

此の

圖

の道程

イギ

リス

の里

法に

て六

億里

あり

一月

廿日

七月

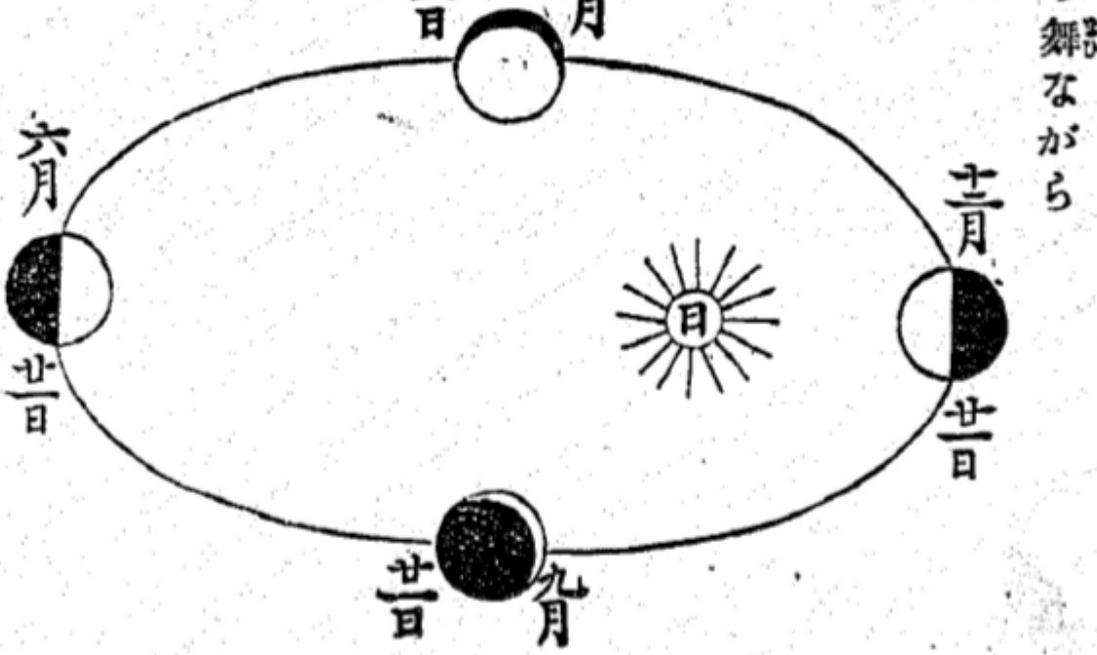
廿日

九月

廿日

六月

廿日

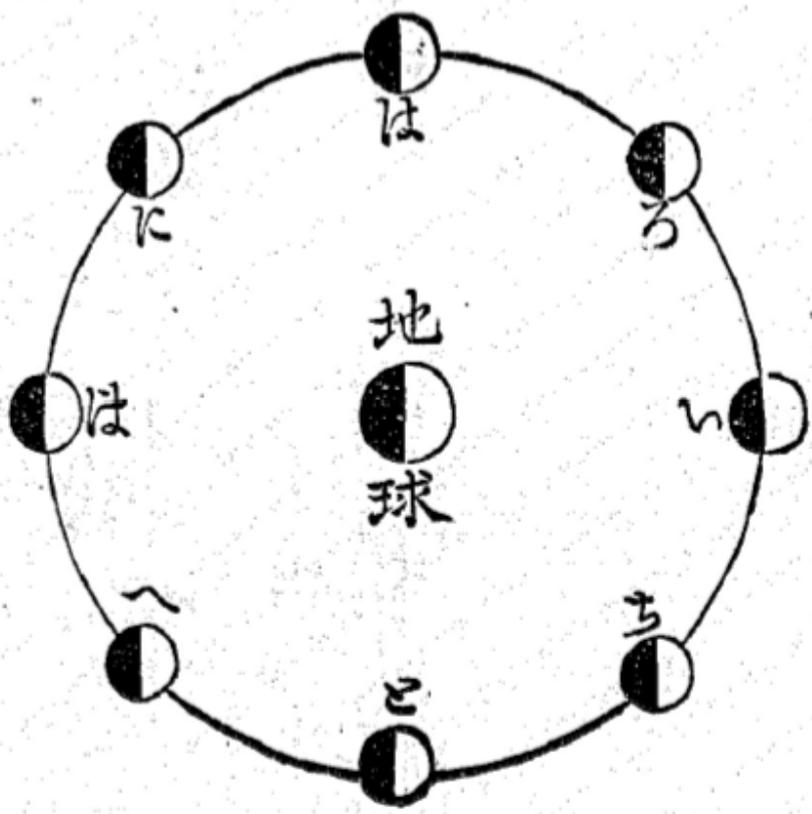


地球の周囲に
月の廻る圖



「い印より始り、ち印に至る。此廻る。」

す 爲^なを 虚^か盈^るの 月^づて に 道^{みち}



ウキークの日の名

西洋にては一七日をウキークと名け、世間日用の事、大抵一ウキークにて勘
 定せり。譬へば日雇賃にても借家賃にても其外物の貸借約束の日限皆何れ
 も一ウキークに付何程とて、一七日毎に切を付ること、我邦にて毎月晦日を限にす
 るが如し。其一七日の唱左の如し

サンデー 日曜日

マンデー 月曜日

チュウズデー 火曜日

エンスデー 水曜日

サアスデー 木曜日

フライデー 金曜日

サタデー 土曜日

右の如く定てサンデーは休日にて、商賣も勤も何事も休息することむかしの我
 邦の元日の如し。

一年の月の名

一年は十二に分ち十二箇月とす其名と日の數左の如し。

月の名

日の數

ジャニユアリー	一月	三十一日
ヘブリユアリー	二月	二十八日
マーチ	三月	三十一日
エプリル	四月	三十日
メイ	五月	三十一日
ジユン	六月	三十日
ジュライ	七月	三十一日
アウグスト	八月	三十一日
セプテンバー	九月	三十日
ヲクトヲバー	十月	三十一日
ノベンバー	十一月	三十日
ヂセンバー	十二月	三十一日

右の如くし三月四月五月を春とし、六月七月八月を夏とし、九月十月十一月を秋とし、十

二月一月二月を冬とするなり。

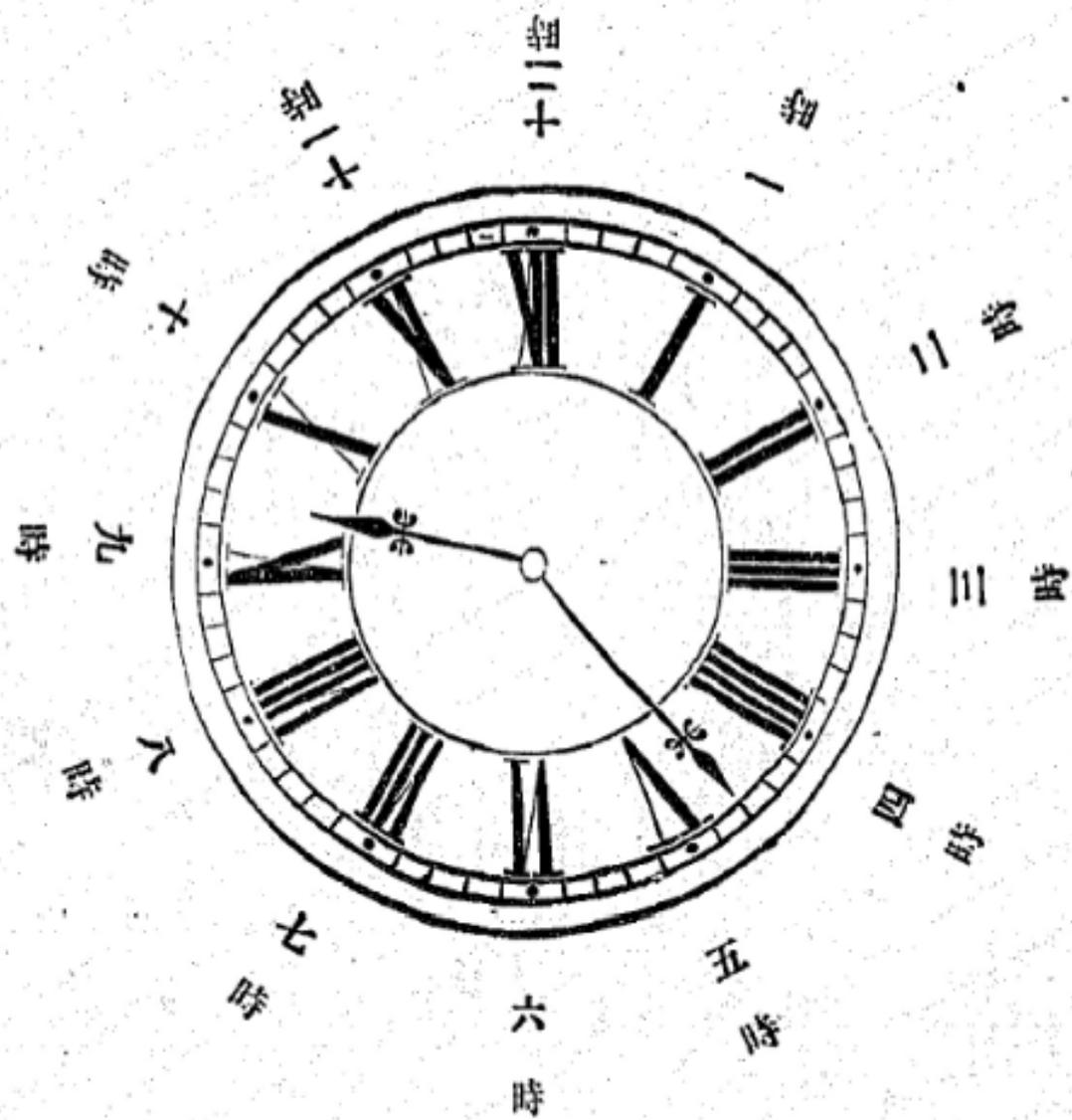
時計の見様

西洋にては一晝夜を二十四時に分つゆゑ、彼の一時は日本の舊半時なり。其半時を六十に分て、これを一分時（ミニウト）といふ。亦この一分時を六十に分て一「セカンド」と云ふ。一「セカンド」は大抵脈の一動に同じ。扱時計の盤面を十二に分ち、短針は一晝夜に二度づゝ廻り、長針は二十四度づゝ廻る仕掛にせり。先づ正午又は夜半十二時を本とし、この時には短針も長針も正しく重り合て十二時の所を指す。これより段々々々右の方へ廻り短針の一時を指すときは、長針は盤面を一周して六十分時を過ぎ、又十二時の處に戻り、これより亦次第に進み短針の一時と二時の間に來るときは、長針も盤面を半分廻りて三十分時を過ぎ、丁度六時の所に來り。故に時計を見て時を知には先づ短針の指す所を見て、次ぎに長針の居所を見るべし。譬へば短針の指す所、九時と十時との間にして長針の指す所、二時の處なれば九時過ぎ十分時なりと云ふことなり。又此短針九時と十時との間を半過ぎて十時の方に近寄り、長針も進で八時の所に來ればこれを十時前二十分時と云ふ。即ち其二十分時とは長針の十二時の所に至る迄二十分時であると云ふことにて、何れも

長針は十二時を本にし盤面にある六十の點を計へて何時何分時と云ふことを知るべし。左に示す時計の圖は九時過ぎ二十三分の處なり。

時計の圖

時 計 の 圖



青空文庫情報

底本：「福澤全集 卷二」時事新報社

1898（明治31）年

初出：「改暦辨」慶應義塾

1873（明治6年）年1月1日発兌

※国立国会図書館デジタルコレクション (<http://dl.ndl.go.jp/>) で公開されている当該書籍画像に基づいて、作業しました

※「大陽」と「大陰」は、底本通りです。

※「閏」に対するルビの「じゅん」と「しゅん」の混在は、底本通りです。

※表題は底本では、「改暦辨《かいかきべん》」となっています。

※変体仮名は、通常の仮名で入力しました。

※誤植を疑った箇所を、「改暦辨」慶應義塾、1873（明治6年）年1月1日発兌の表記にそって、あらためました。

入力：田中哲郎

校正：高橋征義

2018年12月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<https://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

改曆辨

福澤諭吉

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>